

インドネシアのはえ縄漁業におけるSBTの体長及び年齢分布のアップデート

1 要旨

この文書は、バリ島のベノア港を基地として操業しているインドネシアのはえ縄漁船から得られたSBTの体長及び年齢データを用いたこれまでの分析結果をアップデートしたものである。体長組成データは、20の産卵期分（1993/94から2012/13まで）、年齢組成データは18期分（1990/94期から2011/12期まで、ただし1995/96期を除く）が揃っている。今年は、2011/12期に採集された500の耳石の年齢査定ができなかったため、当該シーズンの直接年齢体長相関表（ALK）の構築ができなかった。漁獲魚の年齢分布を推定するため、過去2産卵期（2009/10期及び2010/11期）の直接年齢データを用いてALKを構築し、これを2011/12期の体長組成データに当てはめた。

以前のCCSBT-ESCのレポートで言及されているように、モニタリング開始以降、インドネシアのはえ縄漁船により水揚げされたSBTの体長及び年齢には顕著な変化が見られている。要約すれば以下のとおり：

- 1) **体長分布**：1993/94期から2002/03期の間、水揚げされたSBTの平均サイズは、尾叉長（FL）で188.1cmから166.8cmに減少し、それ以降は尾叉長168.3cmから171.0cmの間で変動していた。しかしながら、直近のシーズンのSBTの平均体長は、たったの尾叉長162.1cmであった。これはモニタリング開始以降最低である。大部分は尾叉長150cmから190cmの間であったが、23.6%は尾叉長150cm未満だった。前シーズンの尾叉長150cm未満は2.6%未満であった。月ごとにデータを見てみると、2012年10月及び11月に水揚げされた魚の74.9%が小型（150cm未満）であった。11月以降に水揚げされた魚の平均サイズは、昨シーズンの同時期の平均サイズよりもわずかに低かった。水揚げされた小型SBTが漁獲されたのが産卵場だったのかその南だったのか、及びこれらの小型SBTがSBT産卵個体群の一部と考えられるかどうかを判断するための調査を継続中である。
- 2) **年齢分布**：同様に、インドネシアで水揚げされたSBTの平均年齢も、1990年代後半から2000年代初頭までの間に、20歳以下だったものが15歳以下に低下している。2011/12期（データを保有している直近のシーズン）の平均年齢は16歳であった。2001/02期以降、SBTの平均年齢は比較的安定していたが、20歳以上のSBTの平均年齢は低下傾向を示している。これは、漁獲魚に占める割合について、30歳超のSBTが減少する代わりに、25-30歳が増加傾向にあることによるものと考えられる（図6）。